

■効果の見える治水事業

『松田川広域河川改修事業』

高知県幡多土木事務所宿毛事務所 所長 堀本 義男



松田川は、四国西南部に位置し、その源を愛媛県宇和島市津島町の小岩道(標高814m)に発し、高知県西南地域の拠点都市である宿毛市を縦断して宿毛湾に注いでいます。当河川は、流域面積232.0 km²、流路延長51.1 kmの二級河川です。

上流域には足摺宇和海国立公園に指定されている篠山があり、豊かな自然林と高山植物の宝庫となっています。中流域の宿毛市出井地区には、花崗岩の河床に急流が渦巻くことによってできた罅穴群の「出井罅穴」があり、高知県の天然記念物となっています。下流域は農地や宿毛市街地が広がっており、河口付近までの感潮域では多くの鳥類、魚類の生息が確認されているなど自然豊かな河川です。また、下流部には藩政時代に野中兼山により建設された河戸堰を始め、いくつかの堰があり、古くから農業用水に利用され、利水の面においても重要な役割を果たしている河川であります。

一方で、流域の年間平均降雨量は約2,000 mmで夏季に集中して降ることから、過去に幾度となく豪雨や台風により氾濫し、多くの被害を受けてきました。特に大正9年8月の台風6号に伴う豪雨は3日間で1,000 mmを超え、宿毛市街地側の堤防が決壊し、死者60人、家屋の流出全壊190戸という大惨事となりました。それ以降においても昭和38年、39年、47年、55年と洪水により大きな被害を受けてきました。このため、松田川の抜本的な治水対策が望まれ、流域の治水効果を高めるため、松田川総合開発事業(松田川広域河川改修事業、坂本ダム建設事業)に着手しました。平成12年度に完成した坂本ダムと平成16年度に完成した河戸堰の可動式への改築は、流域における治水安全度を大きく向上させました。

近年では、平成13年9月の高知県西南豪雨や平成16年、平成17年、平成19年の度重なる台風による洪水が発生しましたが、これまで改修してきた施設により、治水効果は最大限に発現されています。治水安全度の更なる向上を目指し、引き続き、広域河川改修事業により、築堤や河道拡幅等の改修工事を行います。

今後も関係機関や地域住民との連携を強化しながら治水・利水・環境のバランスのとれた河川整備を実施していくことにより、地域の発展に寄与するものと期待しています。

整備の進む松田川築堤工



坂本ダム



河戸堰



地域の発展を目指して

宿毛市長 中西 清二



高知県宿毛市は四国の西南端に位置し、全国どこよりも早い桜の開花が示すように、温暖な気候と、海・山・川の豊かな自然に囲まれた、とても暮らしやすいところです。豊後水道に面した宿毛湾は、魚のゆりかご・天然の養殖場、といわれるほど魚種の豊富な海で、ここで取れる魚の味は絶品です。また、磯釣りに適した場所も多く、釣り人にはあこがれの場所でもあります。沖合いの沖の島周辺の海は透明度も高く、珊瑚や熱帯魚が豊富に見られ、全国有数のダイビングスポットとなっています。農業では、温暖な気候を生かした野菜の露地栽培、ハウスを使った施設園芸、海に面した南斜面での果樹栽培などが盛んに行われ、宿毛の特産品として市場に流通している野菜や果樹が多くあります。歴史的に見れば、貝塚などの遺跡も多く、早くから開けた地域で、豊かな歴史と文化を築く中で、明治以降の日本に多大な影響を与えた多くの人材を輩出しています。

松田川流域は、豊かな自然に囲まれ、古くから豊富で良質な水に恵まれた土地で、その水は、灌漑用水や上水道に利用されてきました。ところが、毎年のように襲来する台風や集中豪雨によりほぼ例外なく浸水被害を受けてきました。

近年では、坂本ダム及び河戸堰可動化の完成と周辺整備により、松田川下流域の浸水被害状況は大幅に改善され、市民の生命と財産を守るとともに、幹線道路の機能確保など効果を発揮しています。また、オクラやブロッコリーに代表される露地野菜やビニールハウスを活用したミョウガやニラ、小ネギなどの栽培が可能となり、全国でも有数の産地として出荷できるようになりました。

今後は、宿毛市内で製造の始まった芋焼酎の原料となる黄金千貫(サツマイモ)や、ポン酢として利用の始まった直七の栽培を推進するなど、農業所得の向上を目指して環境整備を実行してまいります。農業生産者をはじめ地域住民が安全で安心して生活していくためには、広域河川改修事業の早期完成が不可欠でありますので、関係各位の更なるご尽力、ご協力を賜りますようお願いいたします。

河戸堰周辺



農産物



加工品

